

少年の塔整備作業

期日：令和3年7月10日（土）

7月10日(土)に伊那公園東大社横にある「少年の塔」周辺の整備作業を行いました。

午前7時、教育会常任委員、幹事、今回は北部・南部地区の代議員、総勢44名が集まりました。

天候面の心配から原会長からの「少年の塔についての話」を割愛し、さっそく作業に入りました。参加していただいた皆様のお陰で、塔が磨かれ、周辺の草刈りや木の剪定が丁寧に行われ、大変きれいになりました。ありがとうございました。

今年度は、整備作業を9月20日（祝）に再度行い、9月25日（土）の「少年の塔慰霊祭」を迎える予定です。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



令和3年7月13日

整備作業参加の先生方へ

上伊那教育会長 原 文章

少年の塔について

先日は早朝より、整備作業にご参加いただきありがとうございました。

当日は降雨が予想されたため、少年の塔の由来についての話を割愛させていただきました。その場でお話しできなかった内容については下記の通りです。一読していただき、少年の塔についての理解を深めていただければ幸いです。

なお、少年の塔整備作業及び慰霊祭は、満蒙開拓青少年義勇軍について学ぶ平和教育研修会として位置づけられているものであり、教育会としては最も大切な事業の一つです。今後、第2回整備作業、慰霊祭とありますが、各校でこの事業の意義について機会を捉えてお伝えいただければと思います。よろしくお願ひします。

太平洋戦争終結から、76年の歳月が流れようとしています。

昭和7年（1932年）、満州国が誕生しました。「満州は日本の生命線」と言われ、満州を開拓して国の食糧不足を補い、併せて満州の治安維持を図るといふ国の政策に沿って、全国で満蒙開拓青少年義勇軍が、10代前半から後半の少年によって編成されました。上伊那からの参加者は600名を超えました。送り出すにあたっては、上伊那教育会が積極的に協力し、教師たちは多くの教え子を満州に送り出しました。この満蒙開拓青少年義勇軍の教師らによる積極的送達は、上伊那教育会にとっては戒めとして心に永く留め置くべき負の遺産となっています。

そして、昭和20年（1945年）8月8日、対日戦線布告したソ連軍の南下や関東軍の武装解除による大混乱のなか、多くの満蒙開拓青少年義勇軍に参加した皆さんが、若き命を落としていくこととなりました。その数は上伊那で91名となります。

国策により学業を休み厳しい勤労に動員された学徒たちも含め、若くして散っていった上伊那郡下における物故者の霊を慰め、永遠の平和を祈念するため、上伊那の市町村会をはじめ、上伊那教育会の他、各種団体の協力により、伊那谷の生んだ芸術家、瀬戸団治先生の大作「**鎌を持ち彼方大陸より望郷の念にふける少年の像**」を昭和36年4月、伊那公園に建立しました。

私たちは、過ぎ去りし日々に思いを寄せると同時に、戦後76年を過ぎてなお、この上伊那教育会の負の遺産を決して風化させることなく、真摯に学び、永久平和を誓うことをこめて、毎年この少年の塔の整備作業、そして、慰霊祭をおこなっています。今年は9月25日に少年の塔慰霊祭を計画しています。平和について改めて考える機会としたいと思ひます。

なお、現在長野県立歴史館において、「青少年義勇軍が見た満州—創られた大陸の夢」と題し企画展示会が開催されています。期間は7月10日～8月22日までです。上伊那教育会からも資料を提供しておりますので、興味のある方はぜひご覧ください。

